

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場，出荷団体等

(2) 調査期間

令和4年10月～令和5年1月

(3) 調査結果

ア 農産物

(ア) 普通作物の生産状況

a 水稲

令和4年産の県内の主食用米の作付面積は 21,100ha で、前年産に比べ 600ha 減少した。

作柄については、イネカメムシ類やいもち病の発生により収量や品質の低下が懸念されたものの、台風被害等が少なかったことから「平年並」となり、作況指数は「101（北部 100・南部 101）」となった。

令和4年産の県産米の12月までの価格は、令和3年産の民間在庫量が多いことなどから、令和3年産と同水準で推移している。

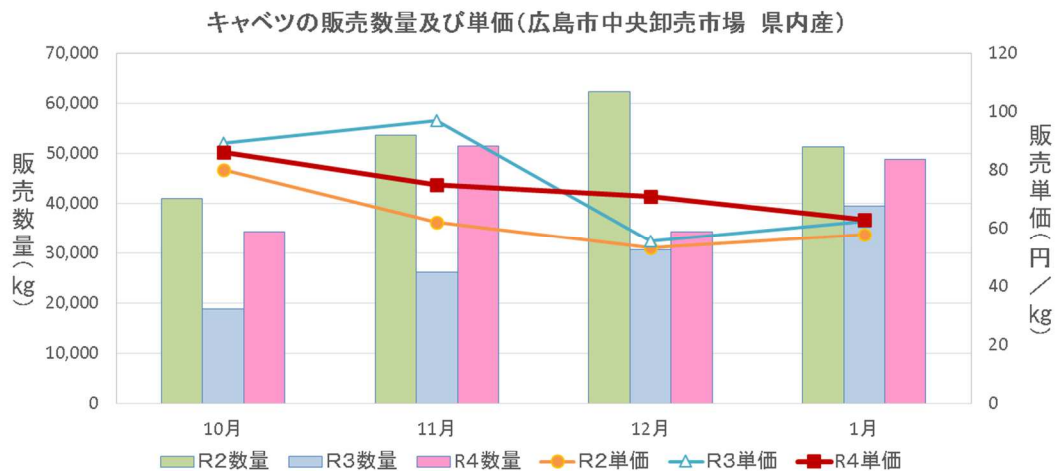
令和5年産の生産の目安については、需要量が令和4年産並みと見込まれることから、令和4年産の作付面積と同等の面積を維持するよう働きかけている。

(イ) 野菜の生産状況

a キャベツ

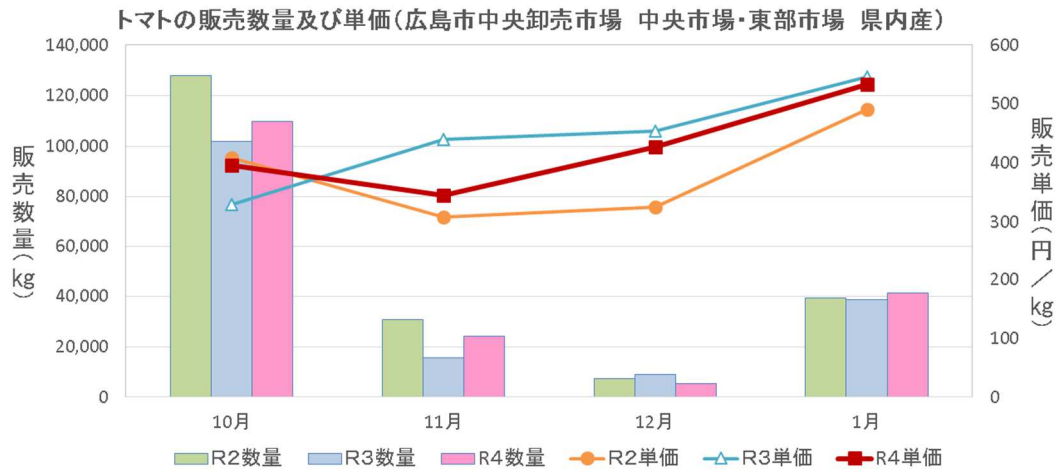
主に尾道市や呉市等から出荷されている。

生育は順調で、一昨年とほぼ同様に取引されている。



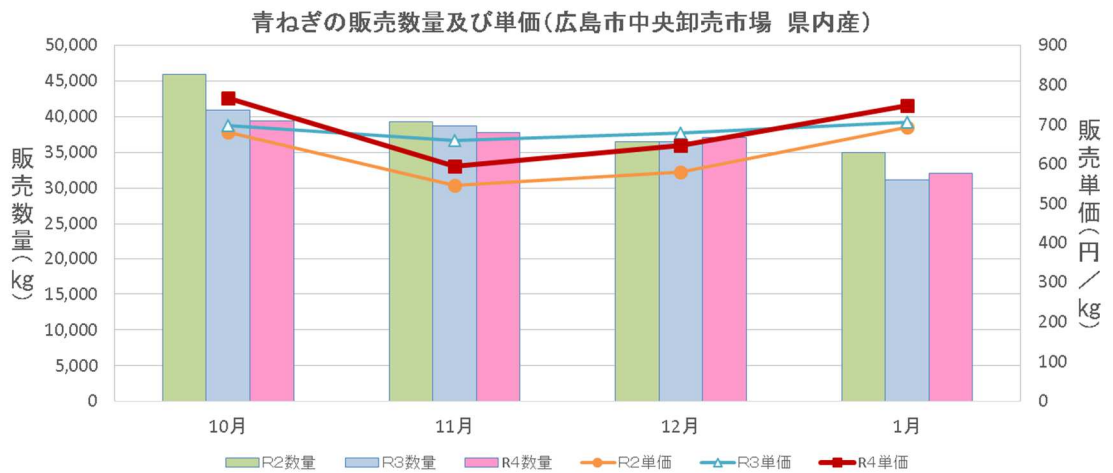
b トマト

11月で神石高原町や庄原市、北広島町で主に生産された夏秋トマトの出荷が終わり、12月からは主に呉市で冬春トマトの出荷が始まっている。生育は順調で、販売数量、販売単価ともに前年並みで推移している。



c 青ねぎ

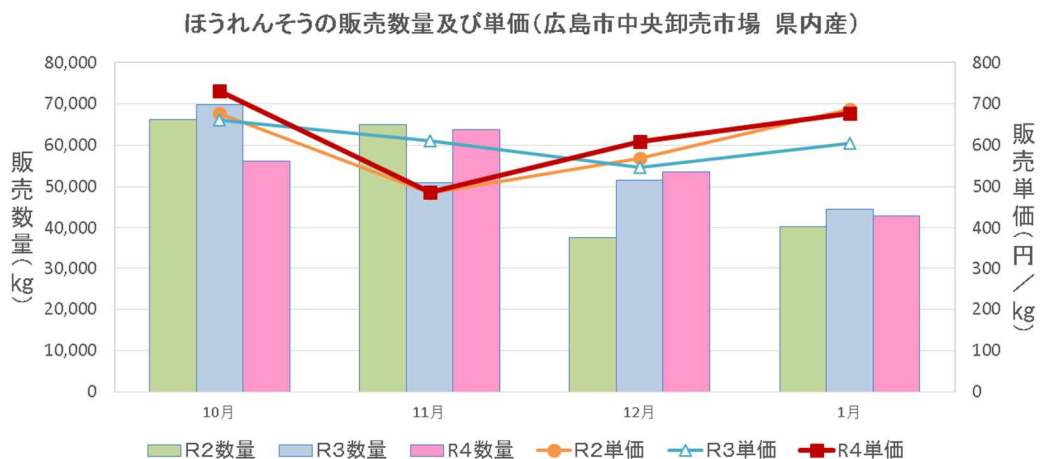
主に安芸高田市から出荷されており、販売数量、単価とも前年並みで推移している。



d ほうれんそう

主に広島市、庄原市等から出荷されている。

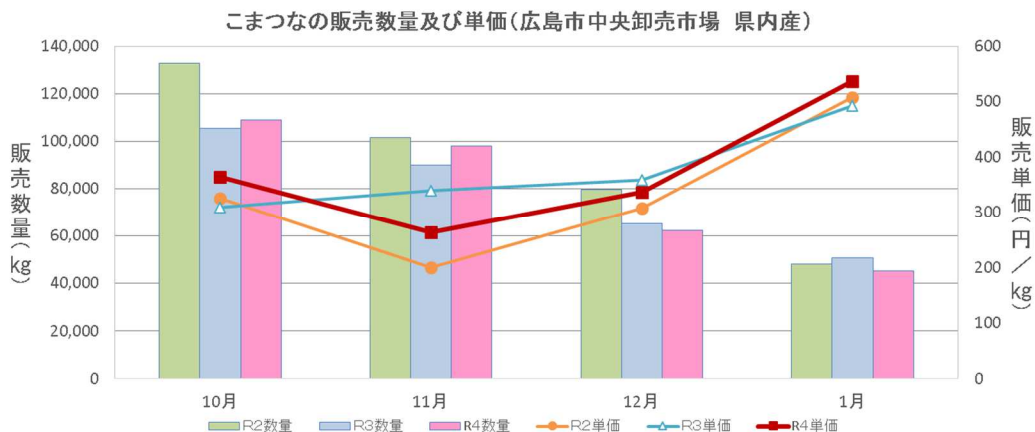
8月、9月の高温による生育不良で10月の販売数量は減少したが、11月以降は順調に出荷されている。



e こまつな

主に広島市等から出荷されている。

12月、1月は冷え込みが強まったことから、販売数量が前年を下回り、価格は平年並みからやや高値で推移している。



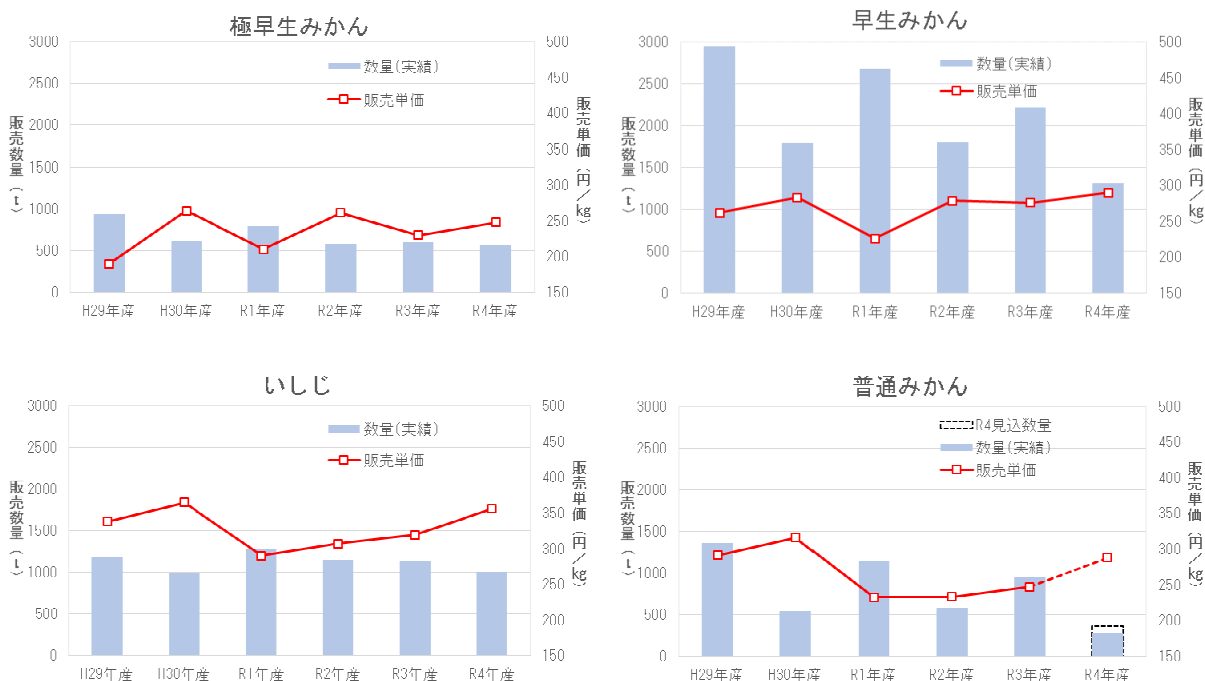
(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん (JA広島果実連扱い)

9月以降の好天により果実の生育が順調で、販売開始時期は例年同様となり、極早生みかんが10月6日、早生みかんは11月5日、いしじ及び普通みかんは12月1日から出荷・販売された。

裏年にあたるため、果実肥大が良好であった一方で着果量が少なく、販売数量は、早生みかん、普通みかんを中心に前年を大きく下回った。

食味がよく、全国的にもうんしゅうみかんの市場入荷数量が前年より少なかったことから、販売単価は、前年より高値で推移した。

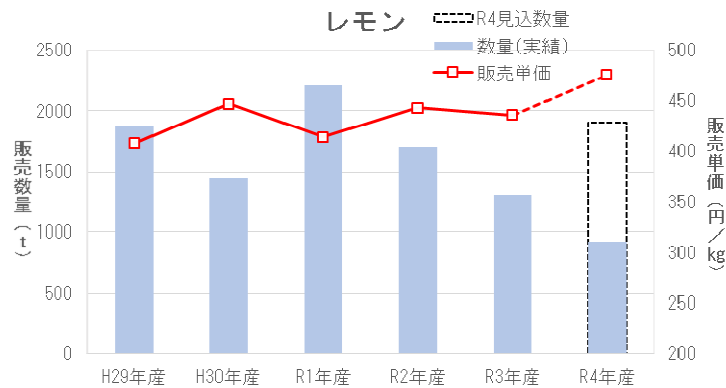


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。普通みかんの令和4年産については、令和5年1月までの実績(販売数量、販売単価)及び令和4年12月時点での販売数量見込み。

b レモン（JA広島果実連扱い）

レモンについては、寒波被害からの樹勢の回復に伴い着果，果実肥大とも良好なことから収穫が早まり，1月末時点での販売数量は前年産に対し2割増のペースで推移している。

ただし，1月下旬の寒波による低温の影響が今後顕在化してくると考えられ，今後の出荷への影響が懸念されている。

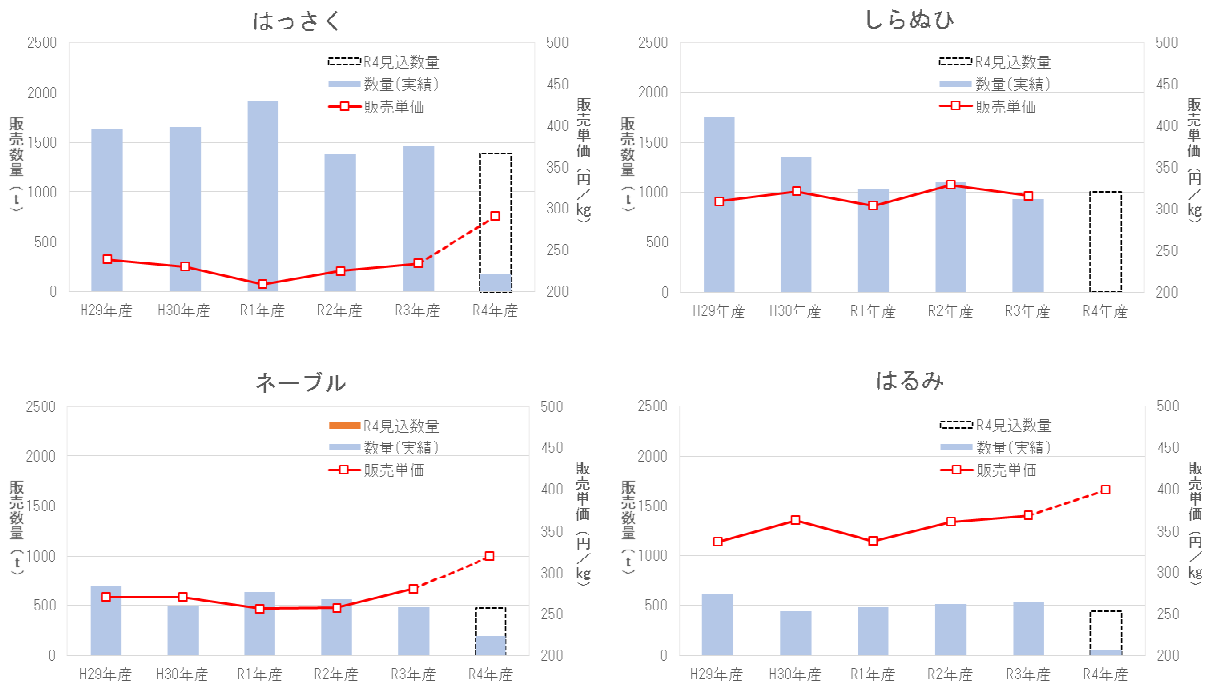


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和4年産については，令和5年1月までの実績（販売数量，販売単価）及び令和4年12月時点での販売数量見込み。

c 中晩柑類（JA広島果実連扱い）

中晩柑類については概ね前年並みの着果量と果実肥大となっており，販売数量は前年並みを見込んでいる。

全体的に糖度が高く，食味が良いことや，円安の影響で輸入果実の価格が高騰していることから，国産の中晩柑類の需要は高く，高値傾向で推移している。



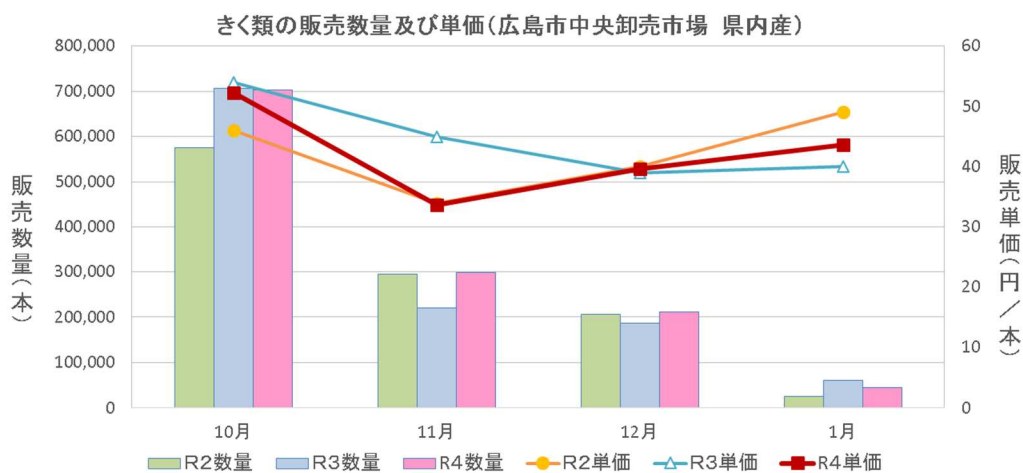
※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和4年産については，令和5年1月までの実績（販売数量，販売単価）及び令和4年12月時点での販売数量見込み。

(I) 花きの生産状況

a きく

11月以降、県北部からの出荷が終わり、南部の産地を中心に出荷されている。

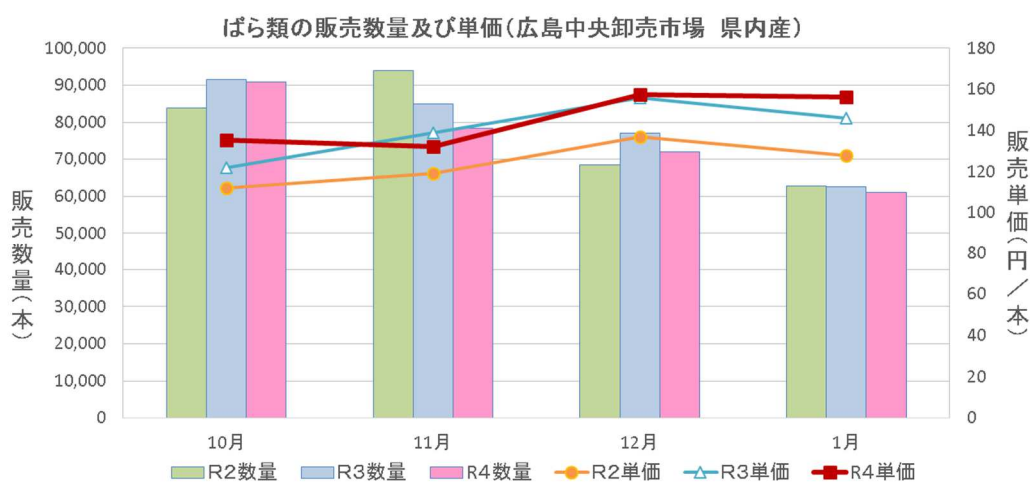
10月までの単価は、主産県（岩手・愛知）での高温による生理障害や、円安による輸入量減少の影響で品薄傾向となり、高値で推移したが、11月以降は、入荷量の増加により安値傾向となった。



b ばら

主に廿日市市，江田島市，呉市から出荷されている。

生育は順調で，販売数量，販売単価ともに前年並みで推移している。

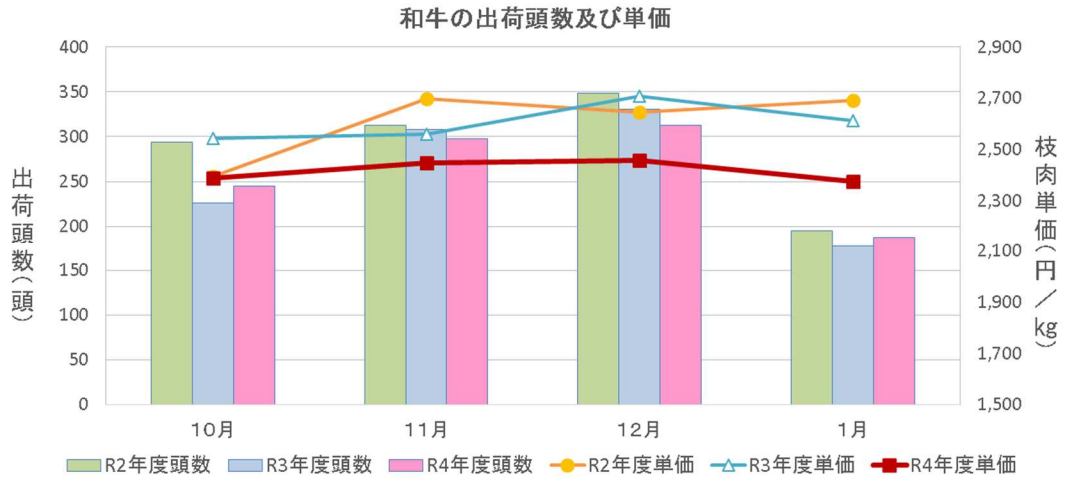


イ 畜産物の生産状況等

(ア) 和牛

出荷頭数は、月により増減はあるが、ほぼ前年並みで推移している。

枝肉単価は、相次ぐ物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりから和牛肉の引き合いが弱くなり、前年を下回って推移している（前年比 91～96％）。

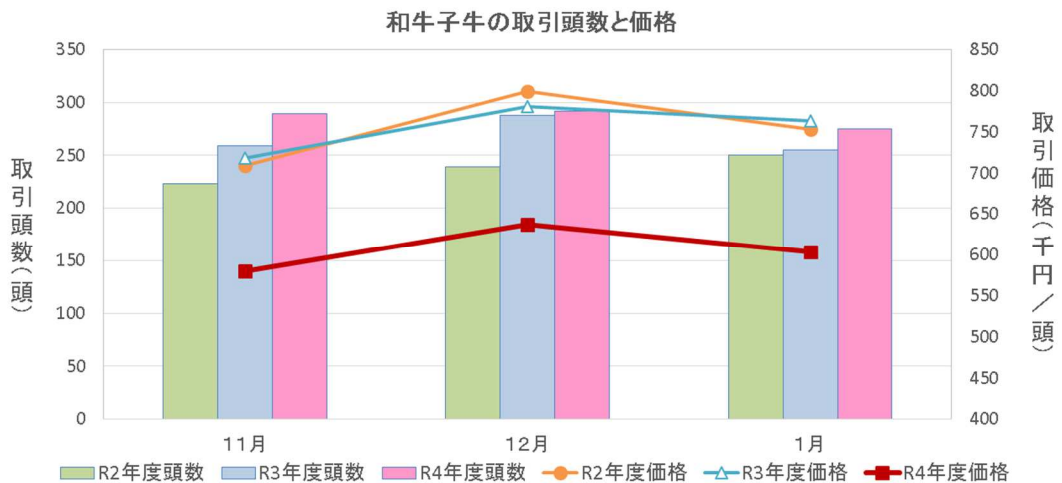


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての和牛（成牛），枝肉単価は和牛去勢A4で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、11月から1月まで、前年をやや上回って推移している（前年比 101%～112%）。

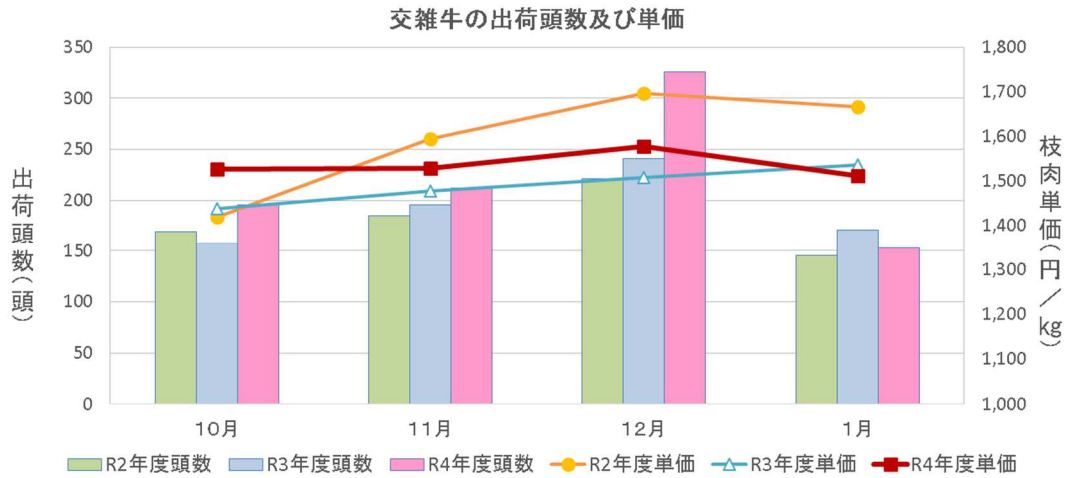
取引単価は、飼料価格等の生産資材高騰や、枝肉単価が下落傾向にあることにより肥育経営体の収支が悪化していること等から、前年を下回って推移している（前年比 79～82%）。



※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

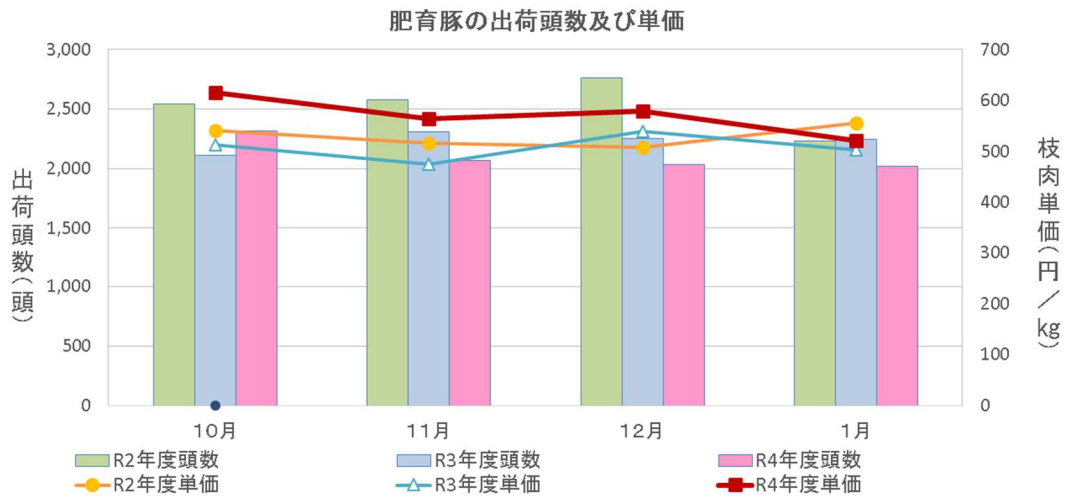
出荷頭数は、12月までは前年を上回って推移した（前年比108～135%）。
 枝肉単価は、12月までは前年をやや上回って推移した（前年比104～106%）。



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛），枝肉単価は交雑牛去勢 B3 で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

出荷頭数は、月により増減はあるが、前年並みで推移している。
 枝肉単価は、物価高騰の影響で相対的に安価な豚肉の需要が増えており、前年を上回って推移している（前年比104～120%）。

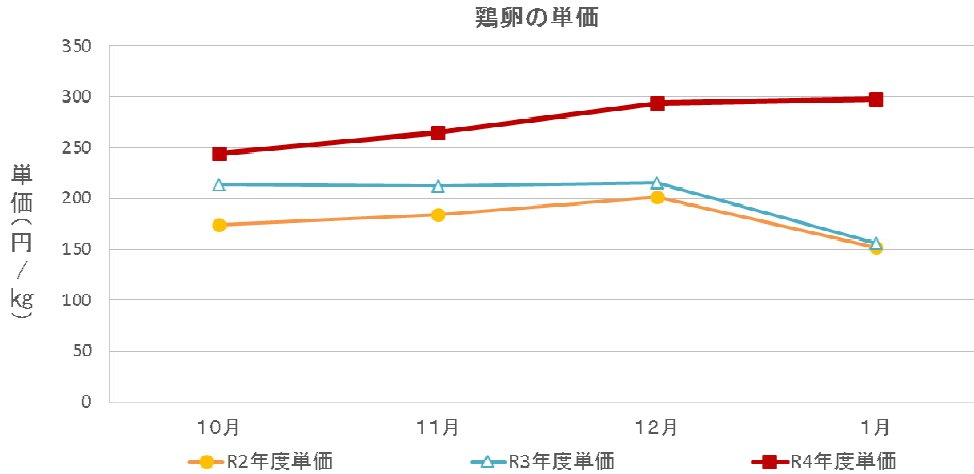


※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産
 ※ 「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

高病原性鳥インフルエンザの続発によって鶏卵が品薄状態となっており、大幅に値上がりした（前年比 190%）。

県内における鶏卵の供給は、事業者が他県の系列会社と協力して確保に努め、量販店において欠品が生じてはいないが、品薄の状態が続いている。

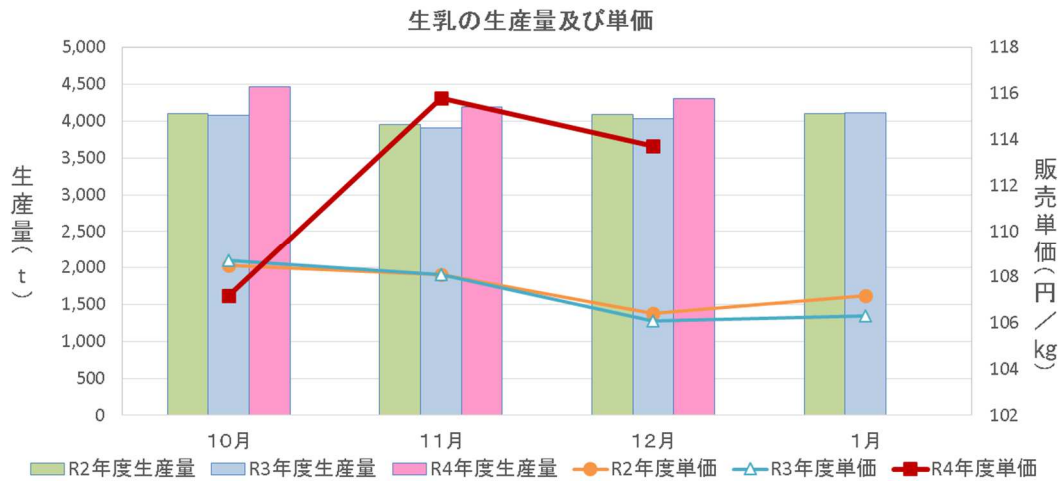


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年をやや上回って推移している（前年比 105～110%）。

生乳の販売単価は、11月から飲用向け乳価が 10 円/kg 値上げされたことを受け、上昇した。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合開取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料は、為替の円安の進行が落ち着きをみせるとともに、海上運賃が値下がりしたことから、令和 5 年 1 月～3 月期は前期に対し平均トン当たり 1,000 円の値下げ（全農系）となった。

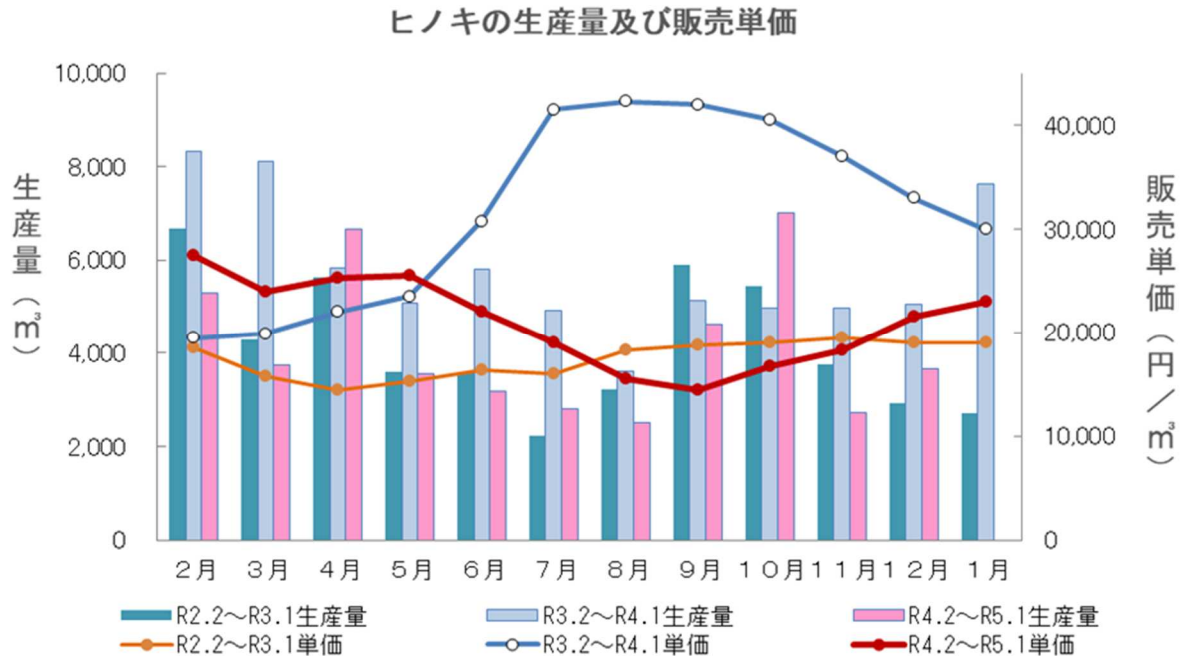
粗飼料についても、配合飼料と同様の状況によって、高騰がやや落ち着きつつある。

ウ 林産物

木材の生産状況

ヒノキの生産量及び販売単価については、「ウッドショック」のピーク時に比べて値下がり傾向にあることや、隣県の合板工場火災の影響が続いていることから、前年度に比べ低い水準となっている。

そのため、引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、流通コーディネーターと連携した需要先の確保や、国による支援策について、関係団体等に周知を行っている。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

オ 水産物

(ア) 水温

2月上旬の県内海域の表層の水温は8.6～12.3℃で、平年差は-1.0～+0.3℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
2月上旬の水温	10.5～11.8℃	11.1～12.3℃	8.6～11.5℃
平年差	-0.5～+0.1℃	-0.4～+0.3℃	-1.0～+0.1℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物17品目の取扱数量は、マダイ、カワハギ、キジハタの3品目で平年を上回った。一方で、14品目で平年を下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、17品目中14品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況 (R4.12)

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	41.4	81	91	940	122	93	17.4	116	125	765	118	87
スズキ	15.5	100	79	630	123	116	11.0	93	91	600	133	130
カワハギ	14.4	71	40	1,735	140	220	7.1	104	123	2,854	128	187
タコ	9.7	120	42	2,315	97	150	4.1	245	62	2,438	97	152
クロダイ	3.8	80	66	438	132	107	3.4	81	67	453	130	105
コウイカ	3.3	94	50	865	119	156	2.4	123	59	935	112	159
アナゴ	37.2	89	79	1,927	98	113	2.2	91	46	1,980	107	138
シタビラメ	3.1	68	33	1,117	124	144	1.8	56	24	1,061	129	140
ナマコ	25.4	69	45	2,519	127	173	1.3	52	30	5,436	210	354
サヨリ	2.8	117	47	1,262	132	141	0.9	534	28	1,075	89	141
ヒラメ	7.8	88	73	2,414	118	123	0.8	87	85	2,303	101	112
サワラ	9.7	47	46	2,080	163	173	0.4	28	65	1,826	152	167
サゴシ	6.2	48	28	805	169	186	0.2	44	44	751	104	118
キジハタ	0.4	87	84	2,037	85	88	0.4	86	149	1,993	82	88
カサゴ	0.7	72	27	799	113	103	0.4	50	19	747	112	100
ガザミ	1.1	87	28	6,125	92	176	0.2	118	15	3,065	66	118
オコゼ	0.3	37	22	3,420	171	187	0.2	33	18	3,219	179	191

平年値は平成24年～令和3年の平均

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ，ちりめん）については，県内産の品質が良く，他県の漁獲状況が良くないことなどから，1月末現在の平均単価は平年比169%となり，共販金額も平年比190%となっている。

広島県煮干共販出荷実績（1月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和4年度 （平年比）	1,967 （112%）	2,206,821 （190%）	1,122 （169%）
平 年	1,756	1,164,228	663

平年値は平成24年～令和3年の平均（1月末累計）

(ウ) 養殖状況

a かき養殖

10月から出荷が始まったむき身については，1月時点の平均むき身重量は平年比96%の14.3g，平均単価は平年比122%の890円/kgであった。

シーズン初めにかきはへい死が多く，5割を超えていた生産者もいたが，1月頃から減少してきており，現在では平年並みである2割程度のへい死となっている。

広島県かき成育状況調査結果（1月調査）

区 分	平均むき身重量（g/個）	平均単価（円/kg）
令和4年度 （平年比）	14.3 （96%）	890 （122%）
平 年	14.9	730

平年値は平成24年～令和3年の平均（1月調査）

b のり養殖

12月下旬から出荷が始まり，共販数量は平年を下回っているが，平均単価は有明海の生産不調による品不足などから平年を上回り，共販金額は平年の142%となった。

広島県乾のり共販出荷実績（2月1日現在累計）

区 分	数量（千枚）	金額（千円）	平均単価（円/枚）
令和4年度 （平年比）	25,245 （83%）	397,595 （142%）	15.75 （171%）
平 年	30,418	279,497	9.19

平年値は平成24年～令和3年の平均